

2018年度
事業報告書

社会福祉法人十字の園
第2アドナイ館

軽費老人ホーム（ケアハウス）第2アドナイ館 2018年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

法人の理念に基づき、前年度同様毎朝近隣牧師、長老の方の協力のもと礼拝をし、精神的（霊的）な糧をいただき、理念の実践に結び付けた。

各事業所にローズンゲンを配布した。根洗荘では聖書の学びを行いキリスト教精神と理念の理解に努めた。

B. 運営方針について

1. 第2アドナイ館グループとして、各事業所らしさを発揮し、施設、地域の利用者のその人らしさを支える。

各事業所のらしさについて事業所ごとで検討した。それぞれの事業所の特徴を表す言葉を作成し、らしさ（強み）を職員が認識し、今後に取り組む姿勢ができた。発揮するまでには至っていないと考えられ継続して取り組む。

特徴を表す言葉

居宅	大切にします。あなたの言葉 あなたの思い
根洗荘	たのしい！皆笑顔になれる場所
ヘルパー	もっと笑顔がみたいから あなたの毎日に寄り添います
のんき	花咲く民家 認知症を支えます
あんき	あんきに来るとあんきになれる あなたの居場所と役割を作ります
第2	自分らしく生き生きとあなたの生きるを支えます。
ぷらすワン	個別で丁寧な支援とトレーニングであなたの前向きな生活を支えます

2. 第2アドナイ館グループとして一体感を強め、チームとして利用者のその人らしさを支える。

第2グループとして認知症、感染症、事故対策、防災、安全運転の委員会を事業所ごとに選出し、研修会を企画する事でそれぞれの顔が見える関係づくりができた。事業所間の違いや取り組みを知りケアや対策に活かした。

3. 第2アドナイ館グループとしてお互いに積極的にコミュニケーションを図り、チーム力を高める。

総合見学会に向け、パンフレット作製や当日に向けて話し合いを行う中で、それぞれの強みや取り組みについてコミュニケーションを積極的にとる事ができた。

来年度に向けても継続して取り組む事でチーム力向上につなげたい。

新たな取り組み 西部地区総合見学会の実施 2018年10月19日に開催した。地域の方やケアマネ合わせて50名の方が来訪して下さった。来年も開催してほしいとの要望が多数寄せられ、継続して開催をしていく事にした。

事業所間交換研修実施 事業所の交換研修を検討したが、一部の事業所で見学研修を行う事に留まった。実施事業所では、他事業所の特徴や違いが分かり、自事業所の特徴や強みを理解できた。

あんき・のんき運営検討 あんき・のんき運営検討委員会を7回開催した。SWOT分析や継続した運営に向けたチェックリストなどを用い今後について検討を重ねた。結果としては、浜松地区の統合に向けた動きに合わせてあんきを認知症ケア・サービスに移行する方向となる。

II 事業計画の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. ケアハウス

地域に向けた取り組みの継続と交流の機会を作る。

- ・総合見学会にむけて地域の方を迎える事を意識し、施設環境や接遇を整える。
浜松地区として総合見学会を行った。迎えるために意識や環境整備は十分とは言えない。
来年度も継続して取組
- ・交流を進めるために、行事、外出の機会、野点、ミニバザーを継続し行う。
地域交流に向けた行事としてミニバザーは開催し、楽しみにして下さっている方もおり継続していく。野点は、常葉大学のボランティアサークルと行う予定であったが、日程調整が上手く行かず、施設内の行事となった。

相互理解を深め、利用者のニーズに柔軟に対応できるようなチームをつくる。

- ・ 昨年の介護技術基礎講座を対話型研修として継続し、相互理解とコミュニケーションの向上を図る。

昨年と同様、接遇・介護技術・認知症・虐待防止・緊急時の対応・リスクマネジメントについて行った。実施内容についてアンケートを行い、なるべく職員の知りたい内容になるように取り組んだ。延人数 80人 平均参加者 13.3人

2. トレーニング型デイサービス ぷらすワン

「ぷらすワンらしさ」を具体的な取り組みとして表し、ぷらすワンらしさを発信する。

- ・ コンセプトが具体的に感じられる様にチームで協力し、ぷらすワンらしさを更に家族や地域、ケアマネさんに発信する。

広報誌を定期的に配布。生活の質の評価として「EQ-5D」採用し活用。お互いに協力し合う事については課題がある。

- ・ 家族会の開催をする。

開催した。参加家族も増え、継続して開催していく。

3. 十字の園 居宅支援事業所

新たな制度や仕組みに対応できるようチームの再編成を図り、地域における支援を必要としている方々を総合的にサポート出来るように体制を整える。

- ・ 特定事業所加算がとれる事業所として体制を整備する。

管理者の変更により、体制の整備が遅れたが、法人他同事業所と連携し来年度（2019年度）から 加算取得し事業を行う。

- ・ 共生型サービスも視野に入れ勉強会を行う。

2回勉強会を開催した。

- ・ お互いのケアプランの課題を共有し、効率的な計画作成につなげる。

毎朝ミーティングを実施。毎月ケアプラン・給付等について勉強会を開催。

4. ヘルパーステーションほそえ

在宅生活を安心して継続して頂くために、サービスの統一と質の向上を目指す。

- ・ 身体介護の支援方法について研修会を開催し、利用者ニーズに不安なく答えられる様にする。

延べ16人の職員が研修会に参加し、報告研修を事業所内で行った。

- ・ お互いが支援内容の確認が出来るように仕組みをつくる。

業務調整が難しく、5月に3人行ったのみとなった。

5. 認知症対応型通所介護 のんき

地域の方とご家族にのんきを知っていただく。

- ・ 地域行事への参加、機関誌の発行。

機関誌の発行はできなかったが、居宅へは事業所報告を毎月行った。

- ・ ご家族が参加できる行事の企画、家族会の開催

開催した。昨年より4名多い参加があった。家族の行事への参加も見られた。

職員も楽しく働ける職場作り。

- ・ 記録を見直し簡略化を図る。役割分担を明確にし、効率化を図る

役割を分けたが、効率化が図れたとは言えない。継続して取り組む。

- ・ 個人目標を立て、年2回職員面談を行う。

実施出来た。

6. げんきプロジェクト根洗荘

自立した生活が継続できるよう行事計画を充実し、精神面・体力面をサポートする。

- ・ 居宅支援事業所と連携し、相談会を定期的に開催する。

バザーの際には相談会を行ったが、定期的には開催できなかった。

- ・ 利用者家族も含めた支援として、遠出又は旅行を計画実施する。

家族の参加を呼び掛けたが、参加はなかったが、遠出（久能山）はできた。

7. 小規模多機能型ホーム あんき

地域に向けた行事の充実。地域拠点としての役割推進。個別ケアの充実。

- ・ 地域カフェ、バザー、開放日の実施。

あんきの開催ではなく、地域で開催するサロンに参加した。

バザーは公民館で開催し、好評を得ている。

- ・利用者の複数担当制、担当者会議と記録の充実。
複数担当制とし実施したが、お互いに話し合う時間が十分ではなかった。
- ・聖書を学ぶ機会をつくり、理念の理解を深める。
ローズンゲンの掲示に留まり、学ぶ機会を作れなかった。

8. 公益的取組目標

地域サロン（カフェ）、中学生体験実習、小学生との戦争体験交流

地域サロンは開催できていない。中学生体験実習、小学生との戦争体験交流は実施した。

B. 利用実績

	ケアハウス	地域密着型 特定施設	通所介護 ふらすワン	認知症通所 介護 のんき	
利用定員	20人	20人	20人	12人	
利用者延数	7300人	6841人	3644人	2270人	
一日平均利用者数	20人	18.7人	15.7人	7.6名	
稼働率、稼働指数	100%	94%	79%	63%	
稼働日数	365日	365日	231日	299日	
単価（一人一日あたり）	7,430円	7,355円	6,568円	12,456円	（根洗荘含む）
総収入（千円）	54,242	52,725	21,793	35,324	
職員数（常勤換算）		17.6人	5.2人	6.2人	（2.94人）

	小規模多機能 あんき	居宅介護支援	訪問介護	人員換算計 事業活動収入 合計
利用定員（月）	24人	140人	—	—
利用者延数	（月）226人	1249人	6450人	—
月平均利用者数	（月）18.8人	（月）104人	（月）537.5人	—
稼働率、稼働指数	79%	74%	—	—
稼働日数（月）	365日	12月	257日	—
単価（一人一日あたり）	（月）229,245円	13,902円	4,673円	—
総収入（千円）	44,932	16,099	23,488	281,243
職員数（常勤換算）	10.5人	4人	4.43人	50.8人

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

（単位；千円、未満切捨て）

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	261,316	281,243	261,306	259,489	10	21,753
施設整備による収支	0	69,190	10,392	83,487	△10,392	△14,297
その他活動による収支	18,000	19,551	6,186	25,942	11,814	△6,390
当期資金収支					1,432	1,065

- ・収入について

事業活動収入が予算に対して増加したのは、おもに次の通り。

ヘルパー事業で支援している利用者から30,000千円の寄付と、第2アドナイ館利用者遺族から1,020千円の寄付があり大幅な収入増につながった。しかし、その金額を差し引くと250,223千円となり当初予算を下回っている。

これは、居宅支援事業所の職員を1名増員し、特定事業所加算を年度半ばから算定する予定であったが、体制を整えるのに時間がかかり次年度4月からとなった。また、認知症デイサービスののんきは利用実績を昨年と同様の人数を予定したが、利用者の入れ替わりが多くあり、新規利用は増えたが、身体的変化によって他事業所へ移られる方も多くあった。2月に資料館工事を行ったが、原因不明だが水道が出なくなり8日間事業を休むことになった。根洗荘においても総合事業やサロンが地域で行われる様になり、稼働率が伸びず前年比でマイナスが増加した。

各事業については次の通り。

ケアハウスは、当初予算に対して1,290千円増であるが概ね予算の推移となった。

ぷらすワンは、事業計画の目標稼働率75%に対して79%となった。予算比534千円増

居宅支援事業所は、特定事業所加算の算定が遅れたため、当初予算比4,270千円減となった。

ヘルパーは、他事業所の事業閉鎖があり利用者増につながっている。当初予算比3,174千円増

のんきは、前年度実績を基に84%の目標を立てたが66.7%。長期利用の方が終了し、新規利用者が増えず利用人数が減少。予算比11,768千円減（根洗荘を引いて）

根洗荘は、前年と比べ、平均利用人数が2.2人減となり、昨年比1,840千円減となった。

あんきは、目標稼働率75%に対して79%。当初予算比1,785千円増

その他の寄付金については、おもにご利用者、ご遺族、ご家族様からのもの31,204千円。

・支出について

人件費は、人事異動等により、前年比496千円減。事業費は、355千円減。事務費は1,740千円減。事務費が減っているのは、研修費が前年比336千円減。修繕費が前年比723千円減。業務委託費が前年比877千円減

・備品等購入（エアマットレス、ちょうじゅうライセンス、ノートパソコン、シャワーキャー、サイドテーブル、ナースコールPHS等）639千円、

・設備改修等（浄化槽フロートスイッチ、ネットワークハードディスク、非常灯バッテリー、リハビリユニット、ホットパック等）391千円

・特別増減の部について

固定資産物品 第2アドナイ館 リクライニング車椅子（除却残 1円）

ジュタンクリーニング機（除却残 1円）

移動リフト（除却残1円）

ヘルパーステーションほそえ 車両（ダイハツ ムーブキャンパス）購入1700千円

小規模多機能ホームあんき エアコン 購入 144千円

2. 事業活動計算書の状況

	(単位:千円、未満切捨て)				
	2018年	2017年	2016年	2015年	2014年
サービス活動収益計	279,562	252,516	259,660	235,477	120,032
サービス活動費用計	274,897	277,556	277,103	260,519	132,318
サービス活動増減差額	4,664	△ 25,039	△ 17,442	△ 25,041	△ 12,285
経常増減差額	3,726	△ 26,460	△ 18,907	△ 26,544	△ 14,135
特別増減差額	0	△ 81	0	52,591	20,299
当期活動増減差額	3,726	△ 26,542	△ 18,907	26,046	6,164

3. 設備投資の状況

特になし

4. 借入金及び積立金の状況

・法人本部からの拠点区分間長期借入金18,000千円。

・福祉医療機構より静岡銀行へ借換。

福祉医療機構 元金償還金 75,480千円、利子等 2,015千円（借換費用845千円含）

上記借換えにより完済

静岡銀行 元金償還 5,542千円、利子 604千円、年度末残高 110,832千円

III. 対処すべき課題

・あんきの認知症デイサービスへの円滑な移行。

・組織変更による役割の明確化と円滑な移行。

・在宅事業の今後の展開について検討。

Ⅳ. 利用者の状況

1. 施設利用の状況

区分				区分				区分			
		2018年	2017年			2018年	2017年			2018年	2017年
入居者数	男	2人	2人	平均年齢	男	98.0歳	91.0歳	入居者数	男	2人	0人
	女	18人	18人		女	88.6歳	90.3歳		女	18人	0人
	計	20人	20人		計	89.5歳	90.4歳		計	20人	0人
利用日数	男	643日	681日	最高年齢	男	102歳	92歳	退居者数	男	2人	0人
	女	6,250日	6,504日		女	102歳	101歳		女	4人	1人
	計	6,893日	7,185日		計	93歳	90歳		計	6人	1人
平均入居期間	男	1.5年	1.9年	最低年齢	男	73歳	72歳	入院者数	男	3人	0人
	女	4.7年	5.1年		女	73歳	72歳		女	6人	4人
	計	4.4年	4.7年		計	20人	20人		計	10人	4人
最長入居期間	男	2.8年	2.2年	出身地域	圏内	20人	20人	入院日数	男	70日	0日
	女	9.8年	8.7年		圏外	0人	0人		女	131日	66日
	計				圏外	0人	0人		計	201日	66日
				平均介護度							
				2.65				2.60			

入居者の介護度区分

区分	2018年	2017年
自立	0人	0人
要支援	0人	0人
要介護度1	7人	8人
要介護度2	3人	2人
要介護度3	3人	2人
要介護度4	4人	6人
要介護度5	3人	2人

入居前住居

区分	2018年	2017年
自宅	4人	0人
病院	0人	0人
老健施設	0人	0人
療養型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他施設	2人	0人
合計	6人	0人

退居者内訳

区分	2018年	2017年
死亡	5人	0人
帰宅	0人	0人
病院へ転出	1人	0人
他施設へ転出	0人	1人
その他	0人	0人

2. 在宅サービスの状況

事業種別	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2018年	2017年
		利用述入	308	348	318	291	323	275	326	316	281	295	268	295	3,644人
月平均入	16.6	16.6	16.7	14.2	15.4	15.3	16.3	15.8	15.6	16.4	14.9	15.5	15.8人	14.9人	
開所日数	18.5	21.0	19.0	20.5	21.0	18.0	20.0	20.0	18.0	18.0	18.0	19.0	231.0日	231.5日	
利用述入	173	192	197	194	201	198	217	219	186	175	124	194	2,270人	2,482人	
月平均入	6.9	7.1	7.6	7.5	7.4	7.9	8.3	8.4	7.2	7.3	7.8	7.5	7.6人	8.0人	
開所日数	25.0	27.0	26.0	26.0	27.0	25.0	26.0	26.0	26.0	24.0	16.0	26.0	300日	310日	
訪問延回	537	542	545	589	591	527	587	553	529	482	445	523	6,450回	5,978回	
訪問延時	445	442	436	478	494	439	495	466	446	407	384	438	5,370時	4,984時	
月作成件	125	134	139	136	135	141	136	142	137	144	140	144	1,653件	1,428件	
登録人数	18	20	19	19	19	19	18	19	20	18	17	20	226人	219人	
利用述入	302	343	348	309	362	313	326	311	289	280	280	293	3,756人	4,312人	
月平均入	15.1	15.6	16.6	15.5	15.7	16.5	14.8	14.8	14.5	14.0	14.0	14.0	15.1人	17.2人	
開所日数	20.0	22.0	21.0	20.0	23.0	19.0	22.0	21.0	20.0	20.0	20.0	21.0	249日	250日	

予防・対象者含む

Ⅴ 職員の状況

職種	配置	男		女		就職異動入		退職異動出		比較増減	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
		施設長	1		1						
事務員	2	1	1	1							
生活相談員	1		1								
特定施設入居者生活介護	介護支援専門員	1			1						
介護職員	7	2	1	6	2	1	1	1			1
看護職員	1			1							
介護	機能訓練職員	1			1			1			(1)
栄養士	1			1							
調理師・員											
歯科衛生士		1					1				
その他		2					2				
小計	15	6	4	11	5	1	1	2	0	(1)	1
在宅部門	地域密着通所	3	3	1	2	3	1	2	1	(1)	1
	認知症通所	3	8	1	2	6			1		(1)
	小規模ホーム	7	8	2	5	7	1	1			
	居宅支援	4		2	2		1			1	
	訪問介護	2	7		2	7		1			1
保険外通所		6		1	5			1		(1)	
小計	19	32	6	4	13	3	1	3	3	0	0
合計	34	38	10	5	24	33	4	2	5	3	(1)

Ⅵ 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	1件	104,000円
入居者家族	4件	50,000円
遺族	2件	1,020,000円
在宅	1件	30,000,000円
一般	1件	10,000円
業者	0件	0円
職員	2件	20,000円
役員	0件	0円
合計	11件	31,204,000円

・多くの皆様からご支援を頂きありがとうございます。今後も、よろしくお願い致します。

その他寄付金収入

区分	件数	寄付金額
寄付等雑収入		
寄付物品		

* 現員は2019年3月31日 就退職は2018年度内増減